

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2014年版、名古屋建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)
 物環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ATグループ本社 南館	階数	地上9F
建設地	名古屋市昭和区高辻町701番1、70	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	730 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所・物販店	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年11月 0.0	評価の実施日	2015年7月30日
敷地面積	3,114 m ²	作成者	
建築面積	2,498 m ²	確認日	2015年7月31日
延床面積	13,261 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE3.0</p> <p>☆☆☆☆☆ A: ☆☆☆☆ B: ☆☆☆ B: ☆☆☆ C</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 3.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 4.0</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 4.0</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>低層部は、ハイブリッド車種の拡大をはじめ自動車業界全体が環境指向を強める中、「木」を基調としたデザインによって環境イメージを具現化した自動車ショールームとし、「木」のぬくもりとクルマの融合を図っている。高層部はグループ企業が集結した事務所として、外装ルーバー、エコポイドなど環境負荷の低減、自然環境の取り込みに配慮した計画としている。設備機器においては、高効率機器を多数採用し消費エネルギーの削減に努めている</p>	<p>その他</p> <p>施工管理者が建設副産物の分別状況を適宜確認し、適切に分別されたことを確認するなど、建設副産物の減量化とリサイクルの推進を行う。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>交通量の多い高速道路側からの外気取入れを避けるなど、取入れ外気に配慮している。高層部の事務所部分に関しては東西面にルーバーを設置し、日射熱の低減を図っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>低層ショールームはインテリアパースによる検証を通じて木を基調とした内装とした。高層部の事務所は天井高2.8m、OAフロア、内装材の耐用年数に配慮し、リフレクシユコーターの充実と合わせてゆとりある空間を確保し</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光パネル、エコポイド、トップライトなど自然エネルギー利用設備を各種設置している。設備システムの高効率化により消費エネルギーの低減を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材を内装仕上材に積極的に採用し、節水型衛生器具採用による水資源の保護など、建物全体として省資源化に努めている。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>隣接する街区に隔地駐車場を確保し、交通負荷の抑制を行い、周辺環境へ配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される